

「博物学者」堀先生

北川 峻 一

堀先生は、「植物の堀先生」として有名ですが、鉱物や化石についても、じつに深い興味と広い知識を持っておられたことを、私の思い出の中から一、二のべてみたいと思います。

昭和16年4月、福井中学（現・藤島高校）2年であった私は、「美山町天田の石灰岩の中にはなぜ化石が見られないか？」というテーマで研究をはじめることになりました。私は昭和14年ごろから美山町小和清水のジュラ紀層の化石の採集・研究をしており、小和清水のすぐ近くの天田の石灰岩にもきょうみを持ったわけです。天田には石炭紀の石灰岩がありますが、かつて化石は見つかっていませんでした。

私は、さっそく堀先生に相談しました。先生は、「天田へはほくも行ったことがある。あその石灰岩は結晶質なので、もとの石灰岩がほぼ完全にとかさされたことがわかる。もともとふくまれていた化石はとけてしまって残っていないのだ。しかし、よくしらべてみると、結晶質石灰岩に接して珪質の岩石がある。この結晶質石灰岩と珪質岩との接触面にだけ、ひょっとすると大型化石が残されているかもしれない。結晶質石灰岩と珪質岩とは冷えてかたまる温度がちがうから、石灰岩中の化石が珪質岩にくわえこまれて残るかもしれない。さがすなら接触面をさがすことだ」と言われたのです。

以来24年、私はおりにふれて、天田で化石をさがしつつけてきましたが、昭和40年ついに天田で大型二枚貝の化石を見つけました。堀先生の予言どおり、結晶質石灰岩と珪質岩の接触面に、珪岩にくわえこまれるようにして、二枚貝化石がはっきりと見られたのです。きわめてまれな標本と言えます。

昭和20年2月末でした。

私たちは「学徒動員令」によって、学業を中止し、名古屋市港区稲永新田の「愛知航空」で飛行機製作にたずさわっていました。福井中学五年の時です。

日本の敗戦は、もはやだれの目にもあきらかであり、19年12月の東海大地震、さらにB29の猛爆、特攻隊の出動が相ついでころでした。

工場の休みの日、私は海岸での化石採集を楽しみました。私たちのいたところは、埋めたて地です。海底の砂をポンプで吸い上げて海を埋めたててできた土地です。砂地をほると化石となった貝、カニ、サメの歯などがあらわれてくるのです。

その日も、私は一心に化石を探していると、堀先生が立っておられ（先生方は、ほぼ一カ月交替で生徒の指導に来られた）、私といっしょになってカニ化石を堀りかかられたのでした。私はこの日、すでにいくつかのカニ化石をとっていましたが、堀先生はなかなかとれません。

先生は、私のとったカニ化石をしげしげと見て「これはヤマトオサガニだ」「これはジュウイチトゲコブシガニだ」と、たちどころに名を指摘されるのでした。

先生も2個見つけ、この日は終わりました。

それから六日後、先生は交替で福井へもどることになり、その前夜、私のへやに長ぐつを片方持って来られたのです。

私の前へ、長ぐつをひっくりかえされると、中からカニ化石がざらざらと出てきたのです。

「毎日さがしたんだ。」

あの時の、とくいそうな先生の顔が、今もまざまざと浮かんでくるのです。

昭和27年、先生は池田町皿尾の白亜紀層から、「東洋パス」化石を発見されました。これは、アジアで最古のハス化石です。この8000万年前のハス化石は、足羽山の博物館に展示されています。

先生の思い出は尽きません。

昭和41年、私が美山町小和清水のジュラ紀層（1億5000万年前）から「手取竜」を発見したことがニュースになった夜、堀先生から電話をいただきましたが、その声は、今もはっきり残っています。

—「まだまだ見つかるぞう」—

今も、「植物の専門家」とか「昆虫の専門家」という人は多くいるでしょうが、堀先生のように、自然の、ほとんどすべての分野にわたって、かぎりない興味と研究心を持った人は、もういないと思います。

堀先生はまことに「博物学者」という名にふさわしい方であったと思います。

（福井市進明中学校）